

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### ＜大学＞

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	商学部
大項目	9 教育研究等環境
中項目	
小項目	9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
要素	教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備 ティーチング・アシスタント(TA)・リサーチ・アシスタント(RA)・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備 教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保

### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

#### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。  
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。  
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。  
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 既存教室の視聴覚機器、情報処理機器を充実させる。	→貸出用CD・DVDプレイヤー、カセットデッキなどの所有台数、およびプロジェクター、PCの設置台数。	C	C	C	C	B
2. TA(ティーチング・アシスタント)によるチューター制度を確立する。	→規程の明文化。	D	D	C	C	B
3. 学部各種教員の業務負担軽減により、教員の研究時間を確保する。	→学部各種委員会数、委員数、1人あたりの委員割合。	C	C	C	C	B

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

#### 《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 情報関連の各種委員会の提言を踏まえつつ、商学部本館内の教室については視聴覚機器や情報処理機器ならびにその周辺設備について一定の充実が図られた。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 効果的な授業運営という点で一定の成果があったが、この種の設備は日々加速度的に進化しており、継続的な補強が必須である。また、教務補佐等のサポートが必須であるが、明らかに人手不足である。学生用PC利用室については、その構造、構成について改善が望まれる。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 2014年度に入って「情報システム委員会」に対して、とくに学生用PC利用室について、具体的な改善点等を提言してもらうよう諮問を行う。	☆
		その他	☆

目標2	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2012年度に全学的なL. A. 制度が試行的に開始され、2013年度においては、商学部においても授業ごとに機能を切り分ける(I種、II種の分別利用)など、効果的に活用が図られるようになった。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 履修者の多い講義において資料配布が合理化され、教員が講義に集中できるなど、具体的な効果があった。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 大学による予算増額が実現すれば、より多くの授業に効果的なL.A.の配置が可能となる。また、L. A. が担当する恒常的な履修アドバイスのカウンターを設置することの効果について検討する。ただし、現行の予算枠のままでは明らかに実現自体が困難である。	☆
		その他	☆
目標3	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 教員の業務負担自体は、こうした「自己点検・評価」等の作業も含めて増加する一方であり、直ちにこれを圧縮することは困難である。2014年度に入って直ちに教員によって構成される各種委員会の設置、構成に工夫を加え、一定の合理化は実現させた。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 担当授業時間数の平均は、教授15.5時間、准教授12.1時間、助教8.5時間と多く、研究時間の確保の改善には至っていない。しかし、2014年度に実行された各種委員会の設置、構成に関する改修は、入試、情報関連においては一定の成果が認められる。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 学部のカバナンス全体を再検討すべく、「将来構想委員会」に諮問を行う予定である。しかしながら、教員定数の増加、ならびに教務補佐・実験実習指導補佐の増員がない限り、抜本的な問題解決はできない。	☆
		その他	☆
備考			☆

《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【商学部】			単位	2010	2011	2012	2013	2014	備考
指標1	教学補佐、実験実習補佐・教務補佐、授業補佐の採用数	教学補佐	人	21	24	25	30	23	
		実験実習指導補佐・教務補佐	人	3	3	3	3	3	
		授業補佐	人	0	0	0	11	12	
指標2	専任教員の担当授業時間(平均)	教授	時間	11.9	14.9	15.1	14.5	15.5	45分をもって1時間に換算
		准教授	時間	11.4	11.3	11.1	11.6	12.1	
		講師	時間	—	—	—	—	—	
		助教	時間	—	8.0	11.0	9.1	8.5	